

ハイタカ

Accipiter nisus (Linnaeus)

タカ目タカ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

小型鳥類の捕食者として森林生態系の頂点に位置するタカで、県内では山地帯の森林に少数が繁殖するのみであるため。

形態

全長約35cm。翼開長約70cm。雄よりも雌が大きい。ハトぐらいの大きさのタカで、短い翼と長い尾をもつ。成鳥雄は、上面は暗青灰色で尾には数本の黒色横帯があり、下面は白地に赤褐色の細い横斑がある。成鳥雌は、上面と下面の横斑が雄より褐色味がある。雌雄とも白い眉斑をもつ。幼鳥は全体的に褐色味が強い。

国内分布

北海道と本州で繁殖し、冬期は南日本でも見られる。

県内分布

山地帯の森林に少数が繁殖する。秋期の渡りの時期には、刈安山、観音山、医王山などの上空を、サシバやハチクマに混じって南に渡る個体が相当数確認されている。また冬期には低山、平野部でも観察される。

生態

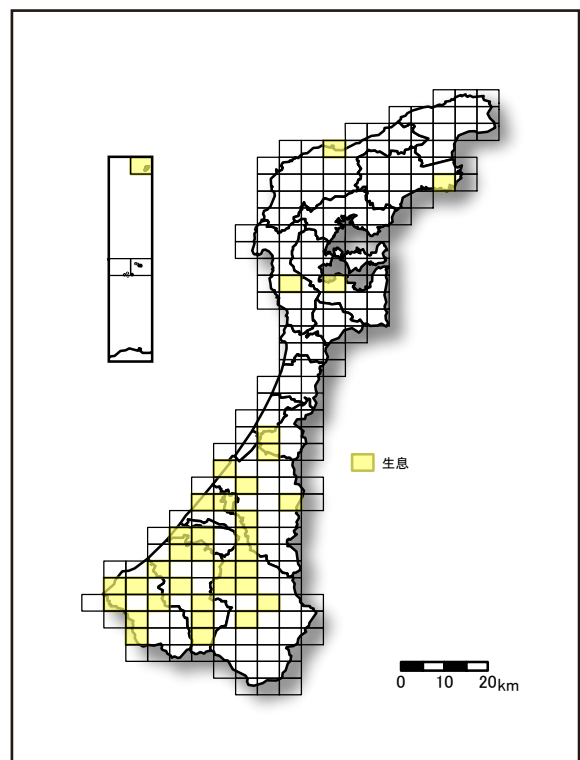
県内でも丘陵帯から山地帯にかけて局地的に繁殖している可能性がある。産卵期は本州では5月で、一腹卵数はふつう4~5個、抱卵日数は約33日、孵化後約30日で巣立ちする。秋期には南に渡る個体が観察される。小鳥類、リス、ネズミなどを主食にしている。

生息地の条件

本州中部では標高500mから1500mぐらいの山地が繁殖地である。県内での繁殖は確認されていないが局地的に繁殖している可能性がある。繁殖地の条件については不明である。

生存の危機

生息地が限定される上、繁殖数もごく少ないと思われる。(A)



県内の分布